

50代での起業と 来し方をつづる

県ベンチャー協会の池辺和寿理事長が出版



県ベンチャー協議会理事長の池辺和寿氏(71)が、五十歳代半ばで起業した自らのビジネスや来歴を「のるかそるかー五十代からの出だち発」のタイトルで著書(B6判、296頁)にした。

(写真)

転機は米商務省のニューズで目に留まった電子湯沸かし器の紹介記事。英語塾や翻訳業の傍ら、3度の渡米を経て「いい物は売れる」と確信したという。日本建装工業(大分市)を設立し、米企業と、日本で独

占的に製品を輸入・販売する業務提携を結んだのが1995年。輸入手続きの苦労や特許取得、業務拡大の経緯、モンゴル、中国市場への進出についてつづった。

後半は、中国東北部(旧満州)での自らの生い立ち、終戦時の苦難や青春時代のほか、理事長を務めるベンチャー協会の活動などをまとめた。親友ジェラルド・カーティス氏(米コロンビア大学教授)との家族ぐるみの深交も、写真を交えて紹介している。

問い合わせ先は日本建装工業(☎097・545・2554)。